



平成 21 年 8 月 6 日

各 位

会 社 名 株式会社 ASK PLANNING CENTER  
 代 表 者 名 代表取締役社長 廣 崎 利 洋  
 ( J A S D A Q ・ コード番号 9 7 5 6 )  
 問 合 せ 先 執行役員管理統括部長 吉 田 俊 英  
 電 話 番 号 ( 03 ) - 3354 - 1181 ( 代表 )

## 平成 21 年 12 月 期 第 2 四 半 期 累 計 期 間 及 び 通 期 業 績 予 想 の 修 正 に 関 す る お 知 ら せ

平成 21 年 2 月 12 日 付 当 社 「 平 成 20 年 12 月 期 決 算 短 信 」 に て 発 表 い た し ま し た 平 成 21 年 12 月 期 ( 平 成 21 年 1 月 1 日 ~ 平 成 21 年 12 月 31 日 ) の 業 績 予 想 を 、 下 記 の と お り 修 正 い た し ま す 。

## 記

## 1. 平成 21 年 12 月 期 連 結 業 績 予 想 の 修 正

(1) 第 2 四 半 期 累 計 期 間 ( 平 成 21 年 1 月 1 日 ~ 平 成 21 年 6 月 30 日 )

( 単 位 : 百 万 円 )

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	四 半 期 純 利 益	1 株 当 たり 四 半 期 純 利 益
前 回 予 想 ( A )	2,000	150	80	50	1 円 49 銭
今 回 修 正 ( B )	930	△ 220	△ 300	△ 200	△ 5 円 94 銭
増 減 額 ( B - A )	△ 1,070	△ 370	△ 380	△ 250	—
増 減 率	△ 53.5%	—	—	—	—
( 参 考 ) 前 期 第 2 四 半 期 実 績 ( 平 成 20 年 12 月 期 第 2 四 半 期 )	2,602	△ 250	△ 311	△ 2,475	△ 68 円 73 銭

(2) 通 期 ( 平 成 21 年 1 月 1 日 ~ 平 成 21 年 12 月 31 日 )

( 単 位 : 百 万 円 )

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	当 期 純 利 益	1 株 当 たり 当 期 純 利 益
前 回 予 想 ( A )	5,250	580	530	220	6 円 54 銭
今 回 修 正 ( B )	4,650	580	450	220	6 円 54 銭
増 減 額 ( B - A )	△ 600	—	△ 80	—	—
増 減 率	△ 11.4%	—	△ 15.1%	—	—
( 参 考 ) 前 期 実 績 ( 平 成 20 年 12 月 期 )	6,043	322	212	△ 2,368	△ 66 円 33 銭

## 2. 平成 21 年 12 月期 個別業績予想の修正

(1) 第 2 四半期累計期間(平成 21 年 1 月 1 日～平成 21 年 6 月 30 日)

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
前回予想 (A)	1,350	100	50	20	0円59銭
今回修正 (B)	510	△320	△350	△290	△8円62銭
増減額 (B-A)	△840	△420	△400	△310	—
増減率	△62.2%	—	—	—	—
(参考) 前期第 2 四半期実績 (平成 20 年 12 月期第 2 四半期)	1,149	△374	△401	△1,505	△41円80銭

(2) 通期(平成 21 年 1 月 1 日～平成 21 年 12 月 31 日)

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回予想 (A)	3,750	500	500	200	5円94銭
今回修正 (B)	3,500	500	420	200	5円94銭
増減額 (B-A)	△250	—	△80	—	—
増減率	△6.7%	—	△16.0%	—	—
(参考) 前期実績 (平成 20 年 12 月期)	2,662	56	7	△1,505	△42円15銭

## 3. 業績予想修正の理由

第 2 四半期累計期間につきましては、「施設運営事業」における売上高は 395 百万円と、当初計画どおりに進捗しましたが、「環境創造事業」は、個人消費の低迷などの景気悪化の影響を受け、出店を見合わせる企業が、期初に見込んでいた以上に多くあり、売上高が 535 百万円と当初計画を下回ったことにより、営業利益、経常利益、四半期純利益ともに損失となったため、連結・個別とも業績予想を修正いたします。

第 3 四半期以降につきましては、中国子会社の売上、営業利益が当初計画を下回る予想であるものの、国内の「施設運営事業」及び「環境創造事業」は売上高および営業利益ともに一部、第 2 四半期までに予定していたテナントからの内装受注の期ズレ分を取り込むことにより、当初計画以上に推移する見込みです。

従って、通期の売上高につきましては、主に、第 2 四半期累計期間までの当初計画との差異により、当初業績予想を、連結・個別とも修正しております。

営業利益につきましては、大幅なコスト削減・経費節減への取り組み効果が見込まれることから、連結・個別とも営業利益は当初計画を維持し、経常利益については所有不動産の一部賃貸を計画したことを変更したため減額しております。又、税金費用等を加算・減算した結果、四半期純利益は当初計画どおりとなる見込みです。

※上記に記載した業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化等の様々な要因により、上記予想数値と異なる可能性があります。

以上